

杉並でも「外環の 2 話し合いの会」スタートする

外環は、地上も地下も道路なの？

地下トンネルに変更された東京外環道の地上部に、何とまだ道路計画が残っていた。この地上部の道路は、「外環の 2」と呼ばれる。なぜか？外環道は、本来、高架道路として計画されており、その高架部分を支えるためのスペースが必要であった。「外環の 2」は、外環を支える柱の横に車を通すようにと、計画された。

これまで、「外環の 2」沿線住民は、外環道の地域課題検討会（国、都が主催）などで、「支えるべき高架道路が地下に潜ったのだから、地上に道路はいらない」と主張してきた。住民の意向は、百も承知の東京都。それを無視するように、武蔵野、練馬で「話し合いの会」を開いている。杉並は、3 番目に開催された。

ところで、「話し合い」の目的は何か？いくら聞いても、判然としない。

杉並では、2011 年 5 月に公募（抽選で 10 名を選出）、6 月 29 日に参加メンバー顔合わせの会。その席上、「話し合いの会」の運営を町会、商店会と公募メンバーに諮る。そんな大事なことを決めるのに、なかなか傍聴者を入れようとしない。なぜか議事録もない。なんとも、不思議な会であった。

強引な東京都、役に立たない司会者！

第 1 回の会合（都は、ここからが正式な会のスタートだという）は、7 月 27 日に開催された。6 月 29 日と同様、司会者がいるのに、ほとんど声が聞こえない。まるで住民側と東京都の直接のやり取りのようだ。それが東京都の狙いなら、司会者などいない。

東京都の小口課長は、自分の考えだけを押し付けてくるので、油断がならない。昭和 41 年当時、外環の 2 に関して、防災、交通、環境、暮らしの「思想」があったと主張。おいおい、都市計画法の旧法時代に、そんなことがあるはずはない。和光から大泉まで、サービス道路が使われているという。待ってくれ、実際に走ったことはあるのか？そんな道路は、そもそも存在していないぞ！などなど、ほとんど大胆不敵といえる応答であった。

突然司会者が声を発する。「一人の人ばかり発言するわけにいかないのだから」「そろそろ時間だから、次のテーマに移りたい」。そういうことを、一方的にやっ

てはいけないでしょう！参加しているメンバーの意向ぐらい、確かめなさい。まるで、東京都の日程に固執しているようです。あなたは、公正・中立な司会者じゃなかったの？

本当はなくなっていた「外環の2」！？

古川さん、宿澤さん、植田さんの発言から、以下のことが明らかになった。石原知事、扇大臣（いずれも当時）が、地上部に迷惑をかけないとして、外環本線と外環の2を、併せて地下化する提案をしたこと。それに沿って、平成13年に「外環がなく、現状を維持する」という案を含む「たたき台」が公表され、有識者会議も「移転家屋数をできるだけ少なくして、地元住民への負担を軽減化することが最も重要視すべき観点」として、ノーインターを提言（平成14年）。平成15年1月には「ノーインター」の方針が、国交省、東京都から発表された。

この経緯を見る限り、当初の外環道と外環の2計画は、ともに地上から地下に潜り、地上部にはいかなる道路計画も存在しなくなったと解釈できる。これをひっくり返したのが、悪名高い岩波練馬区長（当時）である。

ここから先は、第2回の「話し合いの会」に期待しましょう。
開催予定は、10月だそうです。
お楽しみに。

文責・大塚